



研究者名※	オヤマサトコ 小山 聡子	学位※	ミシガン州立大学教育学部大学院リハビリテーション・カウンセリング専攻 MA
所属※	人間社会学部 社会福祉学科	職名※	教授
連絡先	oyamas@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/read0196681		
研究分野※	社会学 社会福祉学		
研究キーワード※	ソーシャルワーク 障害児(者)福祉 社会福祉教育・実習		
共同研究・競争的資金等の研究課題			
社会貢献・産学官連携活動等	障害者虐待の未然防止のための調査研究(構成労働省委託事業) 調査委員長(2016年~2021年)		
受賞歴			

研究領域	社会福祉学 ソーシャルワーク 社会福祉教育・実習	(SDGs)	
研究テーマ※	1. 演劇/ドラマの手法(活動)のソーシャルワーク教育に与える意味 2. 障害者虐待の未然防止のあり方に関する研究		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】</p> <p>1. 近年の社会福祉領域でのソーシャルワーク批判と、それに対する教育担当サイドからの応答の現状を踏まえ、ソーシャルワーク教育におけるコミュニケーション教育のあり方に占める演劇/ドラマの手法(活動)の意味を探る研究をしている。方法は、ここ2008年~2016年まで外部講師と共に展開したコミュニケーションワークショップや自身の演習教育のアクションリサーチ、及び諸種の文献研究である。結果から、教員自身によるクリティカルな省察を踏まえたソーシャルワーク教育の明日、特にマイクロレベルのソーシャルワークの社会変革への連結可能性を目指して教育方法が明らかになると考えている。</p> <p>2. 2012年に施行された障害者虐待防止法の目的に照らして、今なお後を絶たない障害者の虐待を未然に防止するための理論と方法について、毎年国(厚生労働省)が実施する定型の実態調査に加えて、各年度特定テーマを設定して研究に取り組んでいる。ここ数年は日本総合研究所を事務局として選定し、量的な実態調査の結果分析及び、特定のテーマについて年5回程度の委員会を開催して年度末に報告書を発表、厚労省のホームページで公開している。2021年度のテーマは「自治体間の障害者虐待対応ばらつき解消に向けた研究」である。自治体によって虐待通報後の事実確認調査及び立入調査の実施率に大きな差があることに鑑みて、より積極的な対応をしている7か所の都道府県及び市町村を選定し、ヒアリングを実施、その結果分析を踏まえて、施策に反映する提言を予定している。</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <p>1. 演劇/ドラマの手法(活動)のソーシャルワーク教育への更なる導入を、自身及び同僚の教育実践に反映させること。さらに成果の実証研究への可能性を将来的な研究テーマの中に盛り込むこと。そうした成果をソーシャルワーク教育学校連盟のような養成校の職能団体に提言する可能性がある。</p> <p>2. 小山が理事長を務める障害者虐待防止学会での研究とコラボしながら、全国の障害児者施設及び養護者による虐待防止に関する理論と方法の提言が可能になる。提言の次元としては、マイクロレベルの虐待防止方法(=支援実践の工夫や障害児者施設の運営への参考)、国や自治体レベルの研修方法への成果盛り込み、さらには、国レベルの当該法制度の運用にかかる提言が可能になると考えられる。</p> <p>【研究方法の特色】</p> <p>1. 演劇教育にかかる他分野の専門家との協働をしている。2. 厚生労働省及び複数大学の研究者との協働をし、全国レベルの調査に取り組んでいる。</p>		
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小山聡子(2014)『援助論教育と物語』生活書院</li> <li>・都道府県・市区町村における障害者虐待事例への対応状況等報告書(各年度版)</li> </ul>		
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生労働省との連携</li> <li>・子ども虐待防止学会及び高齢者虐待防止学会との連携</li> </ul>		